

俳句の世界（発展課題）

【目標】文章の構成や表現の仕方について評価しよう。

次のA・Bの句は、どちらも松尾芭蕉が詠んだものです。

A 五月雨をあつめて早し最上川

B 五月雨をあつめて涼し最上川

A・Bのどちらかが、川を下る前日に詠まれました。その後、実際に舟で下った体験を経て、改められた（推敲された）と考えられています。

『おくのほそ道』にある「川下り」についての文章を読んでみましょう。

最上川はみちのくより出でて、山形を水上とす。ごてん・はやぶさなどいふおそろしき難所有り。板敷山の北を流れて、果ては酒田の海に入る。左右山覆ひ、茂みの中に船を下す。これに稲つみたるをや、いな船といふならし。白糸の滝は青葉の隙々に落ちて、仙人堂岸に臨みて立つ。水みなぎつて舟あやふし。

【現代語訳】

最上川は奥州より流れ出て、上流は山形領である。（中流には）ごてん・はやぶさなどという恐ろしい難所がある。板敷山の北側を流れて、最後は酒田の海に流れこんでいる。川の左右の岸には山が覆いかぶさり、木々の茂みの中を舟に乗って下っていく。この舟に稲をつんだのが、古い歌に「稲船」と詠まれたものなのだろう。白糸の滝は青葉の間から川に流れ落ち、仙人堂は岸に向かって建っている。水があふれるほど流れ、舟はひっくり返りそうで危険だ。

（『東京都版 国語活用資料集』P86 新学社）

それでは、次の各問いに答えなさい。

問一 Aの句の季語と、その季節を答えなさい。

季語	季節
①	②

問二 A・Bのどちらが「推敲された句」ですか。記号で答えなさい。

③

問三 推敲のきっかけとなったと考えられる「最上川の様子」が書かれている部分を、
本文（古文）中から一文で抜き出しなさい。

④

問四 句を推敲することによって、受ける印象はどのように変化しますか。前後の違いがよくわかるように、具体的に説明しなさい。

⑤
